

みんなが平等で成熟した社会へ

パリパス Pari Passou

NPO 法人 よつ葉福祉社会 広報誌

2018
vol. 2

Pari Passou vol. 2 2018年10月15日発行



特集

一緒に歩むパートナーとして
(株)おかい商店 岡井良樹様 インタビュー

法人のこと 委員会活動紹介
まちのこと 車椅子でいく！ららぽーと和泉 バスの旅
まちのこえ 交流レポート「紀見地区学童保育 だろっぶす」
福祉資源のイロハ 「ヘルプマーク」「障害者なんでも ADR」

経営理念

1. 私たちは、いかなるときでも利用者の尊厳と人権を最優先し、常にサービス提供の質の向上を目指します

2. 私たちは、常に「謙虚さ」「誠実さ」「丁寧さ」を心がけ、職員同士が共に人間的な成長ができる仲間づくりを目指します

3. 私たちは、福祉的課題を解決し、利用者の住みやすい地域づくりに貢献することを目指します

よつ葉福祉社会からのお知らせ

リーベリー

「リーベリー」では、これまで「連携」を大切にしてきました。橋本市のことも課や子育て世代包括支援センター、教育福祉連携推進室、各学校などの関係機関の皆様方には大変お世話になっています。今後も連携をより強化するとともに、放課後学童クラブ等の一般施策とも連携し、専門性をもって後方支援に取り組んでいきます。
(P6 まちのこえ参照)
☎ 0736・26・7685

ソプラス

「ソプラス」のサービスメニューとして、一人暮らし体験をしています。将来、地域で自立した生活を送りたい方に、家族と離れて一人で暮らす体験をしてもらいます。体験することで具体的にイメージし、自分の生活を選択できるようになります。体験された方からも「好評いただいています。お気軽にご相談ください」。
☎ 0736・26・7281

てんとう虫

8月に「ららぽーと」がオープンし、長年「てんとう虫」を利用されていた方が「ららぽーと」でがんばっています。「てんとう虫」はこれまでと変わることなく活動を続けていますが、定員に7名〜8名程度の余裕ができました。山間部にお住まいの方やご家族だけで外出が困難なご家庭など、毎日ご自宅まで送迎させていただきます。ご希望に添えない場合もありますが、お気軽に見学・体験をご利用ください。
☎ 0736・22・1730

ららぽーと

8月1日より生活介護10名と就労継続支援B型10名の多機能型事業所として開所しました。生活介護は「てんとう虫」から移られた方で定員を超えて利用していたのですが、就労継続支援B型は、まだまだ定員に余裕があります。B型で働きたい方も、時間をかけて就職をお考えの方も、どうぞお気軽にご相談ください。就職をお考えの方は「ソプラス（就労移行支援）」との連携も可能です。是非、見学にいらしてください。
☎ 0736・79・4410

ケアスクールひと葉

「ケアスクールひと葉」では9月6日から12月5日まで和歌山県から委託を受けて障害者委託訓練介護訓練科（初級）を開講しており、3名の障害のある方々が介護職を目指して受講されています。また、居宅介護従事者養成研修（同行支援、行動支援等）を年度内に開催することを予定しています。詳しくはお問い合わせください。
☎ 0736・22・3271

告知

日頃の感謝を込めて、感謝祭を開催!

よつ葉の “感謝祭”

利用者や家族の方、地域の方々に楽しんでいただくために、年に1度よつ葉祭りを開催してきました。今年は、日頃皆様にお世話いただいている感謝の気持ちを込めて、感謝祭を開催し、利用者とその家族の皆様をご招待します!是非ご参加ください!

2018
11/11日
10:00-14:00

★フード

うどん、からあげ、ぜんざいなどを無料でご用意します。

★餅つき・ビンゴゲーム

お餅はお土産もご用意! ビンゴの景品もお楽しみに。

★シアター

日頃のみんなのがんばっている姿が写真映像で流れます。



●発行：NPO 法人 よつ葉福祉社会 〒649-7174 和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野 677-1 ☎0736-22-3271 <http://yotsuba-hukushikai.or.jp/>
●編集長：井端 郁人 ●制作：株式会社 Crop 〒641-0021 和歌山県和歌山市和歌浦東 4 丁目 3-19
●ご意見やお問い合わせは jimukyoku@yotsuba-hukushikai.or.jp へお寄せください

地域×障害者福祉×おかい商店＝「創造」 一緒に歩むパートナーとして

株式会社おかい商店 代表取締役

岡井 良樹



かけになりました。障害者の方々が技術を習得することで伝統技術が伝承されていきますし、就労と生産活動を結びつけることで所得確保も期待されます。WIN-WINの形になると思いました。

——障害のある人が経済的な自立をする、働くというのは大切です。その場を与えてくださるのは障害者福祉サイドとしてすごくうれしいことです。

僕も思いはあるけれどどうしたらいいか最初は全くわからなかったんですよ。どうしたら一緒に取り組んでいけるか



と考えると、皆さんに教えてもらって形になりました。僕は聞けるところがあつたから良かったけれど、まだまだ一般企業と障害福祉サービス事業所は関わりがあまりないですよ。だから企業に情報を出したり連携の提案をしたりすればもっと広がるのではないかと。そのあたりは、ソープラスさんのがんばりどころですね（笑）。

ただ、僕は障害があろうとなかろうと、一定のラインを超えてほしいという思いがあります。「障害があるからこれいい」というのはちよつと違う。障害があつてもその人ができるラインを超える努力をしてほしいと思っています。そうしたらその部分をきちんと評価して、「一定のラインを超えたらちゃんと自分に返ってくるんやで」ということを伝えたいんです。

会社も十人十色でいろいろな考えを持つ社長がいて、障害者雇用にどういう価値を見出すかはそれぞれ。会社のカラーとマッチするかなど合わせないといけない条件もあつて、どの企業も同じように受け入れられるわけじゃないから難しいんですよ。僕はそれぞれが自分なりの努力をして、ひたむきにやってくればそれでうれしいんです。その姿

1949（昭和24）年に創業した、老舗の「おかい商店」さん。2年前に自社オリジナルの「昔ながらの布肩引き」開発に着手し、県下の支援学校・障害福祉サービス事業所と連携して生産。国内唯一の「布肩引き」製造販売業者として注目されています。開発者でもある岡井良樹さんに、商品開発の経緯や障害者の働きについてうかがいました。

——「布肩引き」はどのような経緯で生産が始まったのですか

この商品は果樹農家が収穫時に使うカゴに付ける、肩紐です。収穫時期の肩や腰の痛みが軽減できるので、県内や四国地方、静岡県などではよく使われています。以前は中国から輸入して販売していたんですが、品質が悪くて…。昔から農家さんが愛用しているグッズですし、何とかしたいと自社製作に取り掛かりました。

これは本当に肩が痛くならないので農家さんにも喜んでもらえたらうれしいなと思っています。不思議ですが機械で織つたものと、昔ながらの作り方で手で編むのと、肩への負担が全然違うんですよ。昔は手作業で作られていましたが、海外製品の価格に押されたり作り

を見ると心打たれて、一緒にがんばろうって思うんです。

例えば、以前ソープラスさんから実習に来てくれていたMさんは、数を絶対間違えない人で、その部分でとても安心して信頼できたんです。コミュニケーションはちよつと苦手なのかもしれないけど、すごく暑い日も休まず毎日歩いて出勤してくれて。すごいなあって。それぞれに持ち味、良さがありますよね。それを理解して、一人ひとりを見て、経営者や担当者がやっていけたらいいですよ。

でもそれは障害者だからどうということではなくて、社員やパートさんの雇用と同じです。一緒にやっていくことが大切なのであつて、片手間で来てもらつて、何か作業をしてもらつて、時間になったら退社して…そういうのは違うと思っています。

手が高齢化したりという理由で現在に技術が伝わっておらず、姿を消していました。

高野口町などにある縫製工場を回つて、ニット素材やはぎれ布を格安でゆづってもらい、社内で同じ規格に切り分けています。誰が作っても同じサイズにできるよう製作用の什器も開発しました。「肩紐といえば、和歌山よな」と言ってもらえる商品にしたくて、がんばっています。

最終的にはこの商品を通じて、当社と地域と障害者福祉という分野をつなげていくのが目標です。まだまだ始まつたばかりですが、和歌山の北部から中部くらいのエリアの障害福祉サービス事業所へ広げて地域の産業にしたいと思っています。

——農家さんの負担軽減になる商品とは素晴らしいです。生産体制の部分で障害者福祉に取り組む理由は何でしょう。

当社で福祉用具の販売やレンタルなどを行っていますし、よつ葉福祉会の理事をさせてもらっているのも一つのきつ

——障害のある人も一人の働き手として向き合ってください。いるのがよくわかりました。

一緒に取り組む、それが大切だと思っているんです。うちは商品が出来る上があるのはマイペースでも構わない。けれどそこで「もう1個ふんばつてやってみよう」と作ってくれたものがあつたとしたらすごくうれしいです。

ただ受けて仕事するだけじゃなくて、今日行こうとか休もうとか、いつもならここでやめてるけどもう1個やってみるとか。そういう葛藤は、傍で見ていないと関係なしに、人としてどう生きていくかという話ですよ。そういうことを通じて、一緒に協力して、一緒に決めて、一緒に力合わせて、そして成果を出せるような仕組みを作っていけたらと思っています。



Profile

岡井 良樹 Yoshiki Okai
株式会社おかい商店
代表取締役社長
和歌山県商工会 青年部連合会
H27・28 年度会長

研修委員会



委員長 平野 達也

・どんな委員会ですか？

研修委員会は、法人職員の資質向上を目指した研修を企画し、他の委員会の必須研修や他法人との交流研修など、実践に活かせるための研修の実施に取り組んでいます。

・今後取り組みたい事

法人の理念や方針と職員の意見を合わせ、みんなが学びたいと思える研修システムを企画・検討・実施し、職員の学びを支援していきます。

広報委員会



委員長 達本 愛

・どんな委員会ですか？

年2回発行する本誌「pari passou(パリパス)」の企画、取材を行っています。多くの人に手にとって読んでもらえて、さらに利用しやすさにつながる、地域にとってなくてはならない広報誌の制作を目指します。

・今後取り組みたい事

昨年12月にできた新しい委員会です。法人の思いや支援の内容などを地域の皆様方にお伝えし、広報誌を通じて法人の存在意義や役割を高められるようにしていきます。

危機管理委員会

委員長 藤本 照子



・どんな委員会ですか？

今年度から設置された危機管理委員会は、事故発生時の対応と安全、個人情報の取扱い等日常の組織運営で発生し得る様々なリスクに対する体制を整備し、利用者と職員を危険から守ることを目的として設置しました。

・今後取り組みたい事

委員会活動を通して様々なリスクを蓄積し、安全に強く、安心・信頼できる法人を目指すために委員会活動に取り組んでいます。

虐待防止委員会

副委員長 大矢 哲司



・どんな委員会ですか？

虐待防止委員会は、経営理念の第1条にある、

いかなるときでも利用者の尊厳と人権を最優先したサービスの質の向上を目指す理念に則り、権利擁護を基本とした地域生活支援を迫及しています。

・今後取り組みたい事

利用者が望む暮らしや、働きを支援する上で生じるヒヤリハットの蓄積や予防システムを構築し、苦情や要望を積極的にキャッチできるよう取り組んでいます。

安全管理対策委員会

委員長 七釜子 真紀



・どんな委員会ですか？

感染症や食中毒発生の防止などの衛生管理と、サービス提供中の事故防止や不審者の侵入防止などの安全管理に取り組んでいます。

・今後取り組みたい事

実施するだけでなく見直しを大切にしています。事故防止のための安全点検の実施や、建物管理については防犯マニュアルや感染症対応マニュアルに添った訓練の実施、そのほか安全運転など、継続して取り組んでいます。

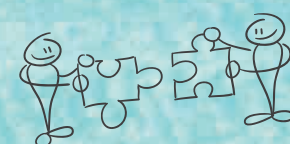


取り組み

わたしたちの

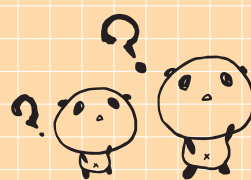
法人の コト

よつ葉福祉会では、事業所が合同で7つの委員会を設置しています。各事業所から職員が参加し、問題点の改善や学びのためのシステムづくりをしています。今回は少しですが委員会活動についてご紹介します！



今回は「ヘルプマーク」と「障害者なんでもADR」を取り上げます。

障害者差別解消法が制定されたことにより、障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて、制度も整備されつつあります。現行制度は正しく理解し、しっかり活用していきましょう！



教えて！ヘルプマークのこと

全国で配布されている「ヘルプマーク」は どんな人が使うものなの？

その外見からは援助や配慮を必要としていることが分からない方がいます。そうした皆さんが周囲の方に配慮を必要としていることを知らせ、援助を受けやすくするマークが「ヘルプマーク」です。東京都が作成し、全国的に広がりつつあります。



画像提供：東京都福祉保健局

●どのような方が対象ですか？

外見からは分からない、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など周りに援助や配慮を必要としている方です。

●ヘルプマークを身につけた方を見かけたら、 どうすればいいですか？

電車・バスの中で、見かけたときは、席をお譲りください。駅や商業施設等では、見守る、声をかけるなどの配慮をお願いします。

願います。災害時は、安全に配慮したお手伝いをお願いします。

●今後、和歌山県としては？

平成30年8月末時点で、約2,900枚を交付しています。今後さらに普及啓発活動をし、みなさんに知っていただきたいです。周囲がマークの意味を知ること、初めて機能するものだと考えています。

▶問い合わせ先 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課 073-441-2532

堀江弁護士に聞きました！

障害を理由にしたトラブルを解決に導いてくれる

「障害者なんでもADR」って何ですか？

「ADR」は、弁護士が和解のあっせん人となり、裁判ではなく話し合いによって3ヶ月以内にトラブル解決を目指す機関のことです。和歌山弁護士会では、全国で初めて障害者が利用しやすい「障害者なんでもADR」を設置しました。



紀北はしもと法律事務所
堀江 弁護士

●障害者なんでもADRとは？

障害者差別解消法には、不当な差別的取り扱いをしないことや、合理的配慮をしないこととあります。障害を理由にしたトラブルがあったとき、行政によっては条例があって対応してくれる場合もありますが、残念ながら和歌山県にはそういったものはありません。そのため、適切な救済が受けられるよう設置した制度です。話し合いをした上でお互いに折り合いをつけ、問題解決を目指します。社会福祉士会にも協力を得ており、利用者の視点に立ったり、中立的な立場で話し合いの場を持ったりできます。

●始めたきっかけは？

障害者差別解消法が施行されましたが、自分たち弁護士に

は何もできないだろうと思っていました。しかし、裁判に頼らず現実的な解決方法が見つければ良いと考え、運用を始めました。弁護士会がこのような取り組みをするのは全国初であり、徐々に注目され、広まりつつあります。事業所や民間に理解してもらい、もっと広めていきたいです。

●支援者としてできることは？

この制度を利用したからといって、利用者の意見が全て通るわけではありません。お互いが折り合いのつくところを見つけます。福祉関係者にも話し合いに同席してもらうため、「障害者なんでもADR」の仕組みを理解しておいてほしいです。また、解決のための1つのツールであることを知っておいてもらえればうれしいです。

▶問い合わせ先 高齢者・障がい者あんしん電話相談（和歌山弁護士会） 073-425-4165

相談申込受付時間：平日 10:00～12:00 / 13:00～16:00

まちのこと

お出かけモデルコース編

②車椅子で行く「ららぽーと和泉」バスの旅



この夏「てんとつ虫」から「ららぽーと」に移られた廣田陽介さんと、バスに乗って「ららぽーと和泉」へ

和泉市あゆみ野にある「ららぽーと和泉」には無印良品、ロフト、ニトリなどの大型店舗をはじめ、200以上のテナントがあります。テレビなどで話題のコストコも隣接している大型ショッピングセンターです。今回は廣田さんと路線バスで向かいます。

とってもかわいいバスで、笠田駅をいざ出発！午前10時35分に駅を出て、約45分で「ららぽーと和泉前」のバス停に到着しました。鍋谷峠道路が開通したので、とてもアクセスがよくなりました。車椅子の利用も問題なしのバスで快適に移動ができ、到着時刻は午前11時19分でした。おしゃべりをしているとあっという間です。

まずは、腹ごしらえにフードコートへ。イタリアン、中華、和食のお店など、10店舗ほどが並んでいます。本当に大きなショッピングセンターですね。通路も広々で、車椅子もスイスイです。家族思いの廣田さんは、お土産を購入。並んでいるスイーツはどれもこれもおいしそうで、何にするか悩みます。

■DATA

平成31年3月31日までの日曜・祝日、笠田駅から和泉中央駅の間を観光バスが試験的に運行しています（1日6便）。

●一日フリー乗車券 1000円
（小学生以下500円、障害者割引有り）

詳しくは、かつらぎ町役場総務課へ
お尋ねください。
電話 0736-22-0300（代表）

今回のお出かけはいかがでしたか？「ヘルパーステーションひと葉」では、移動支援事業の一例として提案させていただいております。ご希望があれば、ご連絡下さい！！

約2時間の散策を目標に楽しんだところで、午後1時33分に「ららぽーと和泉前」を出発するバスで笠田駅に戻ります。笠田駅には午後2時40分に到着しました。滞在時間が少ないかなと思っていました。時間が少ないかなと思っていました。滞りが、思いのほか時間はあり、ゆつくりと楽しめました。

館内を散策していると、ペットショップを発見。かわいい仔犬が尻尾を振ってくれました。最後はゲームセンターへ。廣田さんが狙うのは、ちよっと大きめのフィギュア。惜しいところまでいったのですが、GETできず…。

Q 今後もご協力
お願いできますか？

A もちろんお願いします。子どもの現状や施設での様子、取り組み内容など、話し合える場をこれからも持てみたいと感じました。ありがとうございます。これからもよろしくお願ひいたします。

Q 実際に交流してみ
ていかがでしたか？

A 子ども同士の交流はもちろん、同じ現場で働く職員同士の交流にもなりました。夏祭りの交流では、子ども達の笑顔がたくさん見られて、お互いにいい機会になったように思います。また、どうつぶすに遊びに来て下さい。

Q 最初、リーベリーのとの
交流のお話を聞かれて
どう思われましたか？

A 学童保育との関わりを考えていただき、大変うれしく思いました。私も、放課後等デイサービスに通う子ども達がどのように施設で過ごしているのか関心がありましたので、とてもいい機会に感じました。

まちのこと

交流先にインタビュー！

特定非営利活動法人はしもと学童保育の会
紀見地区学童保育 どうぞぶす

この夏より、リーベリーの子ども達と学童保育施設との交流を始めました。ご協力いただいている「学童保育どうぞぶす」の先生に今回の交流について、お話をうかがいました。

